

粕壁地区が目指すべき理想の姿と具体的な取組について 各委員からの意見（まとめ）

※一部、事務局にて加筆(補足)している箇所があります。

課題① 地域コミュニティの活性化

主な意見

- ①日々の生活の潤いにつながる学びと人とのふれあいができる場所であるとよい。
- ②子どもから高齢者まで、誰もが気軽に立ち寄り、語り合い、互いを理解しあう…。そんな、温かな地域社会を、市民センターを中心として築いていってほしいと思います。学校としても、粕壁市民センターと連携し、地域の方々から学ぶ体験活動や地域行事をとおして、子どもたちが「ふるさとを大切にする心」、「地域の一員としての誇り」を育む教育を進めていきたいと考えています。子どもたちの笑顔や成長が、地域の活力となることを願っています。

主な提案

- ①講演会や発表会、シンポジウムなどを様々なテーマ（人権、平和、防災、スポーツ、子育て、生き方など）で開催する。さらに参加者がインプットされるだけではなく、アウトプット（自分の考えや疑問などを伝える）できる場をつくり、人と人がつながり、気持ちが潤う場所にしていってほしいと思います。
- ②粕壁市民センターを中心に、世代を超えた学びと交流の機会を広げていく。子どもたちと高齢者が、共に活動できる行事やボランティア活動を企画し、世代を超えたつながりを深める。
- ③学校と連携して、地域の方々を講師として招く授業や、児童による地域への発信活動を通して、子どもたちが地域を誇りに思い、地域の未来を担う意識を育てていきたい。
- ④さらに、見守り活動や環境美化活動など、地域と学校が協働で取り組む仕組みを整えていく。市民センターが、学び・交流・福祉の三つの機能を活かして、誰もが参加できる地域づくり拠点となることが、粕壁地区の理想の実現につながると思う。

⑤令和6年度の実績から、「子どもの居場所作りとしての機能」の充実を図る。「学習スペースの設置」と「施設の一部を遊び場として開放」は、継続して行い、そこに“集める”、“集まる”方策を工夫・改善していく。

⑥具体的には、学校関係者と連携してのPR方法・活動の改善、自治会と連携してこども会の活動の場所としての提供や、イベントの開催をしていく。

⑦また、講師を招へいして、学習方法や悩みの解決などの講演会の開催（小・中・高によって講師は違う）をする。

⑧さらに、長期休業中に宿題などの支援日（小・中・高の連携）を設け、自己学習の場だけではなく、助け合い学習の場も必要と考えている。

課題② 粕壁市民センターの活用

主な意見

①地理的な考え方から、近隣の人たちに多く使ってもらえるとよい。

②粕壁地区といつても、遠方のエリアの町会（元新宿、川久保、大池等）などは、使用しないと思う。遠方の人たちには、大きなイベントの開催時には積極的に来てもらえるようにするとよい。

③粕壁市民センターを拠点とすると、利用者は近くの人に限られてしまうと思われる。東口の教育センター（視聴覚センター）等を考慮するなら、市民が集える場所として使い勝手が良いのでは…。

④粕壁市民センターの令和6年の実績をみてもほとんどが「学習」に使われており、おそらく近隣の学生や高齢者が中心ではないか？

⑤粕壁地区であれば、誰でも気軽に粕壁市民センターを利用ができ、活動の中心となる場所になるとよい（五十嵐）

⑥地域の人たちが気軽に立ち寄れる場所になることが理想。地域の人たちが積極的に利活用するようになるとよい

⑦市民センターの利用に際し、公民館の貸出方法では利用しにくいので、手続き等を緩和してもらいたい。

⑧学生やお年寄りに対して優しく便利な春日部として、現状、粕壁市民センターを中心に自習ができるスペース(環境)、誰でも気軽に滞在できる暖かな環境の提供を実現できていると思います。

⑨粕壁市民センターは建物の構造上、オープンな雰囲気が少なく入りにくい。昼間はまだ人の出入りが見えるが、暗くなつてからは周囲や建物が、暗く開館しているのかもわからないので、外から見てホッとするような、何かあった際にも安心して逃げ込めるような建物を意識した、ライトアップも検討してほしい。

主な提案

①巡回バス等の公共機関を利用するとともに、地区内にある他施設(教育センター、男女参画センター等)をセンターの支所として利用できるようしてはどうか。

②新たに粕壁地区(東側)の市民が気軽に集える場所の設置が必要かと考える。現在の粕壁市民センターは、東口の市民にとって、使用するイメージが湧きにくい。

③施設の借用方法の見直しを行う。粕壁地区体育祭の開催時期には、自治会に働きかけければ練習会場としてギャラリーを借用したい自治会は多いと思う。

④粕壁市民センターからかなり距離がある地域もあり、高齢者や子どもは通うことができない問題もある。市民センターが拠点となり、教育センターや粕壁南公民館やハーモニー春日部が、いわゆる支店となり、活動を展開していくことがよいと思う。

⑤また、巡回バス(春日部全域の問題)の小型化をして、春日部市の市民センター地区拠点の巡回バス(ハイエース型)を走らせることで、拠点ともなりやすいし、集客もできると思う。

⑥公民館利用者にとって、確かに駅からは近いですが、少し不便な地域にあるように感じるので、巡回バスを利用できるようになると良いと思います。

⑦地区にこだわらずに利用をうながすべき。

課題③ 地域の特色を生かした取り組み

主な意見

①春日部市の強みというのは「最高のベッドタウンであること、災害の被害が少ないと考える。市民センターや公共の施設は、ベッドタウンには欠かせない交流の場、遊び場になれる可能性が多いにある。

②地域の歴史や文化を題材とした講座や体験活動をさらに充実させ、地域の魅力を再発見できる学びの場を広げていく。

③粕壁地区でしかできないもの(こと)を考える。県立春日部高等学校の生徒を上手に利用する。発表の場や機会を提供し、市民に見てもらう機会を作る。

主な提案

①春日部の魅力をさらに発信し、多くの方に春日部を訪れていただくようになるとよい。

・西口のイトーヨーカドーの跡地周辺で、春日部にまつわるもの(例えばクレヨンしんちゃんに関するアンテナショップなど)の建造物を建て、居酒屋ばかりではなく、お酒を飲まない方も利用できるような物を取り入れる、または広く地域市民の方を対象にしたイベントを頻繁に実施できるとよい。

②実際に、粕壁地区には、観光案内所があったり、ララガーデンにクレヨンしんちゃんに関する施設があるが、駅の周辺に、クレヨンしんちゃんに関する施設がもっとあってもよいかと思います。

③また、粕壁地区に新たにお店を出したい人たちに対しては、実際に腰を据えて店舗を開こうと思えるまでの間、イベント等での出店を呼びかけるなどし、企業を支援できるように、繋いでいくことも必要だと思います。

課題④ 防災・防犯

主な意見

①市民センターとしての機能(地域まちづくりの拠点・防災防犯の拠点など)を生かした拠点施設とする。

主な提案

①首都直下地震等で防災・減災が叫ばれている現状から、年1回以上の総合防災訓練の実施が望ましい。対象は自治会のみに限定せず、粕壁地区全体とするとよい。

②防災用品は粕壁市民センター独自で確保し、春日部市が保存中の防災用品には依存しなくてよい状態となればなおよい。また、粕壁市民センターとして防災倉庫も設置できるとよい。

課題⑤ 積極的な情報発信

主な意見

①粕壁市民センターは、粕壁地区の発信ができる場所である。

②イベント開催時なども、もっと認知があると良い。

③特に大きなイベントの告知を、遠方の人たちにもわかりやすく伝えてほしい。近くの自治会の人たち(八木崎、宮本町、浜川戸、幸町等)の会長も、オブザーバーとして参加した方がよい。

④困った時など、資料3にある地区センターの4つの機能があることを市民に認知してもらうこと。

⑤暮らしの中で感じる様々な課題について、解決するためのプロジェクトが日常的に推進されている。その活動主体は市民であるが、現状の情報提供など、市民センター及び市の各部署は運営を支援している。

主な提案

①SNS の活用を期待。イベント開催時のみならず、日々のちょっとした事などをちょっと発信するだけでも SNS 世代には影響があるかもしれない。(公開可能な範囲で、業務に関することをはじめ、オススメの本、今日の担当者のお屋など。)いわゆる市民センターの“中の人”の発信があると面白いと思う。

②イベント開催の際に市のアナウンス(防災無線)で流すとよい。SNS 世代ではない人には、一番わかりやすい情報発信方法だと思う。

③知ってもらうことが大事。図書館などに配布している『お知らせ』をさらに手に取ってもらえるように工夫する。(市の広報のように)

④利用者にSNSなどを使ってアピールしてもらう。公民館(市民センター)もSNSを使用して利用内容、公民館の様子などを随時アップするとよい。

その他の意見や提案

①前回(令和6年度 地域づくり推進協議会)のテーマであった、「粕壁地区の魅力と課題について」では、粕壁市民センターを利用してというイメージの討論会ではなかったような気がする。

②4つの機能を推進する中で、各年度ごとに主機能(その年の中心とする機能)を達成するための強化策を作り実践し、それを定着させていく。

③魅力ある開催行事やイベントの工夫改善・PR 方法の見直しを行う。

④鉄道の高架化が令和13年度までとなっているので、市民センターの活用については3期ぐらいのプランを作成していくのはどうか？人の流れ、交通網などを考慮して。

⑤現在の粕壁地区23自治会+(できれば)マンション自治会からニーズ調査をしていく。そのなかで表出した課題から、1つテーマを決めて、取り掛かれるところから行っていく。

⑥現在、子どもの遊び場ができたのは、市民からとても評判が良いと感じます。

⑦協議会の進め方についての提案

次のように、まちづくり推進協議会で取組を進める。

(1)まず1つの課題の解決案を策定する。

- ①各委員が暮らしの中で感じる様々な課題を抽出
- ②抽出された課題の中から、優先して解決したい課題を選定
- ③選定された課題について、現状把握を実施
- ④現状把握した内容をもとに、課題解決のための議論
- ⑤対応策決定 = 行動しない結論を含む
- ⑥対応策実行開始(まちづくり推進協議会だけで出来ることは少ないかもしれません)

(2)残りの課題の検討の進め方を策定する。

上記(1)での活動を鑑み、まちづくり推進協議会終了後の推進方法を検討する。